

METTS NEWSLETTER

教職課程センター・地域学校教育センター

特集：「大学生と話そう会」大成功！

5月29日、オープンキャンパスと同日、「大学生と話そう会2022」第1回が開催されました。このイベントは、明海大学と連携高校との関係をより強固にするとともに、高校生が直接大学生や留学生と交流することで明海大学での勉強や学生生活について理解を深めることを目的として、地域学校教育センターの主催で、2018年度から実施しているものです。

今回は、都立飛鳥高校、都立竹台高校、都立南葛飾高校、都立葛西南高校、県立浦安高校の5校から1,2年生73人が参加し、そのうち47人は様々な国や地域の背景をもつ在京外国人生徒の参加者でした。

高校生たちは、午前中に大学紹介やオープンキャンパスの学科魅力発見コーナー展示などを見学した後、昼食は学生食堂マリーズで学食体験をし、午後30周年記念館スチューデントホールでの交流会に参加しました。安井利一学長と参加した連携校代表の飛鳥高校東達康副校長先生からの御挨拶の後、教職課程を履修している学生11人及び本学外国人留学生13人と高校生が20グループに分かれて、高校生から大学生に質問したり、地球規模の課題についてディスカッションを行いました。



2022年度足立区民対象「アフターコロナの海外旅行を応援『海外で役立つ初級英会話講座』」



5月22日、足立区との連携協定(2017年1月締結)に基づき実施されている、2022年の足立区民対象英語講座第1クール(春季)が足立区役所で開催されました。「アフターコロナ時代の海外旅行を応援・海外で役立つ初級英会話講座」をテーマに、5月22日から全5回で講座を実施します。講師は、教職課程センター・地域学校教育センターの百瀬美帆教授と多言語コミュニケーションセンターのパトリツィア・ハヤシ教授とタイソン・ロード准教授です。講座に集まった20人の足立区の参加者に対して、「At the hotel」という場面設定で、ホテルのレセプションリスト(フロント係)との英語のやり取りの例を示し、皆さんが楽しく活動に参加しました。

受講者からは、「NHKのラジオ講座を担当している百瀬美帆先生の講座と聞いて参加した。パトリツィア・ハヤシ先生とタイソン・ロード先生の皆を楽しませる活動に感謝したい」、「孫がこの4月、明海大学の歯学部に入學した。明海大学の講座と聞いて喜んで参加した」などの声が聞かれました。

教育実習体験記

6月になって教育実習が本格化しました。多くの4年生が千葉県や東京都のみならず自身の地元に戻って中学校または高等学校で実習を行っています。今回は、教育実習を終えた3人の学生（日本語学科の伊藤浩志さんと高橋翔吾さん、英米語学科の武藤美優さん）に実習での体験談を寄せてもらいました。

伊藤さん：「母校の中学校での教育実習では、校長先生をはじめ多くの先生方に大変お世話になりました。僕が一番思い出に残っているのは、担当の国語科の先生に言われた『授業は生き物』という言葉です。教師は人を相手にする仕事なので、柔軟な対応ができないと成り立たない職業であると身をもって感じました。教育実習で学んだ経験を糧として、将来みんなの笑顔を守り、幸せを与えることができる社会人を目指していきたいです」



伊藤浩志さん



高橋翔吾さん

高橋さん：「最初の一週間は、教材研究に追われたり、環境に慣れていなかったりと実習を無事に終わることができるのか不安でしたが、生徒とコミュニケーションを図る中でクラス内が良い雰囲気に包まれていき、授業がとてもやりやすくなりました。良い授業をするには生徒との関係作りが重要だと気付きました。文化祭にも準備の段階から携わらせていただき、最後には楽しみながら実習を終えることができました」

武藤さん：「3週間母校の中学校で教育実習をさせていただきました。短い時間のなかでも生徒の元気や笑顔に沢山の刺激を受けながら生徒の成長に携わることができて、改めて教師の魅力に気づくことができました。この教育実習は私にとって初めて明確な夢ができたかけがえのない時間でした。生徒と話したことや思い出を胸に教師を目指して努力し、これから出会う生徒に夢や目標を与えてあげられるような教師になります。素敵な生徒と先生に出会えた本当に幸せな教育実習でした」



武藤美優さん

足立区との連携による第3回日本語指導研修会

6月3日、足立区との教育連携に基づく「明海大学連携事業『小学校教員向け外国人等児童の日本語指導研修会』」が、「足立区こども支援センターげんき」で開催され、区内の小中学校から4人の先生方と「あだち日本語学習ルーム」から6人のスタッフの参加がありました。講師は、外国語学部日本語学科・木山三佳教授が務めました。昨年度はコロナの影響でZoomで開催しましたが、今回は対面で開催することができました。

テーマは、「母語と日本語の両方の育成を目指す教室活動」とし、日本語習得を目指している外国籍児童にとって、母語を保持・伸長することがいかに重要であるかを豊富な具体例とともに解説したり、指導計画を作成する演習を行ったりしました。

参加者からは、「母語の基礎がしっかりしていれば、それが第二言語の日本語にも転移し使いこなせるようになることが分かった」「特別支援教室の児童にも生かせる内容だった」などの感想がありました。



アゴラ活用状況(人)	
6月	1070
2018年からの延べ数	40,569